

第3回 津駅周辺道路空間検討委員会

日時：令和4年3月1日（火） 14:30～

場所：アスト津 4階 アストホール

議 事 次 第

1. 開 会

2. 議 事

1) 津駅周辺道路空間の整備方針（案）

3. 閉 会

【資 料】

- ・ 議事次第
- ・ 出席者名簿、席次表
- ・ 設置趣旨、設置要綱、委員名簿
- ・ 資料1：津駅周辺道路空間の整備方針（案）について
- ・ 資料2：津駅周辺道路空間の整備方針（案）
- ・ 参考資料1：津駅周辺道路空間に対する主なご意見
- ・ 参考資料2：津駅周辺空間の利活用等に関する提案 募集結果

第3回 津駅周辺道路空間検討委員会 出席者名簿

令和4年3月1日（火） 14:30～
アスト津 4階 アストホール

区分	所属	氏名	出欠
1 委員長	三重短期大学生活科学科 教授	オノデラ カズシゲ 小野寺 一成	出席
2	近畿大学工業高等専門学校総合システム工学科 教授	ナカヒラ ヤスユキ 中平 恭之	出席
3	三重県トラック協会 専務理事	カワカタ ヒサシ 川方 尚	出席
4	三重県バス協会 専務理事	アオキ シュウジ 青木 周二	出席
5	三重県タクシー協会 津支部長	ムラタ トモカズ 村田 友和	出席
6 委員	津商工会議所 女性会 会長	マツダ ヒロコ 松田 弘子	出席
7	津市観光協会 専務理事	オノ コウジ 奥野 幸司	出席
8	国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所 所長	スガ リウイチ 菅 良一	出席
9	三重県県土整備部 部長	ミノ コウジ 水野 宏治	出席
10	津市都市計画部 部長	ワタナベ コウリョウ 渡邊 公隆	出席
11	東海旅客鉄道株式会社 総合企画本部企画開発部 担当部長	キムラ セイジ 木村 誠司	出席
12	近畿日本鉄道株式会社 名古屋統括部施設部工務課 主査	クロカワ ユウタ 黒川 雄太	出席
13	三重交通株式会社 バス営業部 部長	タカダ カズアキ 高田 和昭	出席

事務局	国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所 計画課
	三重県県土整備部 道路企画課
	津市都市計画部 都市政策課

第3回 津駅周辺道路空間検討委員会 席次表

令和4年3月1日（火） 14:30～

アスト津 4階 アストホール

スクリーン

三重短期大学
教授

近畿大学工業
高等専門学校
教授

小野寺 一成

中平 恭之

事務局

国土交通省
三重河川国道
事務所 所長
菅 良一

三重県
トラック協会
専務理事
川方 尚

三重県
県土整備部
部長
水野 宏治

三重県
バス協会
専務理事
青木 周二

津市
都市計画部
部長
渡邊 公隆

三重県
タクシー協会
津支部長
村田 友和

津市観光協会
専務理事
奥野 幸司

津商工会議所
女性会会長
松田 弘子

オブザーバー席

近畿日本鉄道株式会社
名古屋統括部施設部工務課
主査 黒川 雄太

東海旅客鉄道株式会社
総合企画本部企画開発部
担当部長 木村 誠司

三重交通株式会社
バス営業部
部長 高田 和昭

随行者

随行者

随行者

随行者

出入口

出入口

令和3年7月12日
国土交通省中部地方整備局
三重河川国道事務所
三 重 県
津 市

「津駅周辺道路空間検討委員会」の設置について

（設置趣旨）

現在の津駅周辺空間が形成されてから約半世紀、新型コロナウイルスや少子高齢化、災害の頻発化・激甚化、交通ネットワークの進展、AIをはじめとしたデジタル技術革新の加速など、今、時代が大きく変化している。こうした状況に対応し、10年後、20年後の未来を見据えた更なる発展を実現するため、津駅周辺空間を新たなステージへ進化していく必要がある。

地方都市が主役のポストコロナ時代において、みえ県都の顔となり、地域の活力を引き出し、災害にも強い空間へと再生するため、令和2年度に三重県・津市は「津駅周辺空間の基本的な方向性」を取りまとめた。

基本的な方向性では、①公共交通の利便性の強化、浸水等の災害時の対応の強化、②歩行者の賑わいや滞留機能の強化、③東西連携の強化、④駅周辺の回遊性の強化、⑤官民協働によるマネジメント・ユニバーサルデザイン・デジタル化・周辺地域との連携を行い、新たな技術や仕組みを積極的に取り入れながら継続的な進化を図ることとしている。

については、基本的な方向性を踏まえ、有識者、交通関係者、経済関係者および行政等が、さまざまな立場や観点から幅広く意見交換を行い、津駅周辺道路空間の整備方針の策定に向け、計画の具体化を図ることを目的として、「津駅周辺道路空間検討委員会」を設置するものとする。

津駅周辺道路空間検討委員会 設置要綱

(設置)

第1条 津駅周辺空間の基本的な方向性(2021.3策定)をふまえ、専門的な知見等から幅広く意見聴取し、整備方針案を策定することを目的として、津駅周辺道路空間検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、様々な観点から検討及び協議し、意見を述べ、整備方針案を策定するものとする。

(組織)

第3条 委員会は、有識者、交通関係者、経済関係者、各行政機関をもって構成する。

2 委員の任期は、委員会の所掌事務が完了するまでとする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、学識経験者である委員がこれを務める。

2 委員長は、会務を総理する。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 会議の議長は、委員長をもって充てる。

3 委員長は、必要があると認めるときには、委員会の会議に委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(代理出席)

第6条 交通関係者、経済関係者、各行政機関関係者において、やむを得ない事情により委員会に出席できないときは、代理者を出席させることができる。

(検討部会)

第7条 委員会は、必要に応じて検討部会を設置することができる。

(守秘義務)

第8条 各委員は、個人情報や公開することが不適当な情報を漏らしてはならない。また、その職を退いた後も同様とする。

(公開)

第9条 委員会の会議は、原則公開とする。ただし、委員長は、公開することにより公正かつ円滑な会議運営に著しい支障が生ずると認められるなど、特別な理由がある場合には、非公開とすることができる。

(事務局)

第10条 会議の運営に関わる事務を行わせるため、事務局を置くものとする。

2 事務局は、国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所計画課、三重県県土整備部道路企画課、津市都市計画部都市政策課に置くものとする。

(補則)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

津駅周辺道路空間検討委員会 委員名簿

所 属		役 職	氏 名（敬称略）
有識者	三重短期大学 生活科学科	教授	小野寺 一成
	近畿大学工業高等専門学校 総合システム工学科	教授	中平 恭之
交通 関係者	三重県トラック協会	専務理事	川方 尚
	三重県バス協会	専務理事	青木 周二
	三重県タクシー協会	津支部長	村田 友和
経済 関係者	津商工会議所 女性会	会長	松田 弘子
	津市観光協会	専務理事	奥野 幸司
行政 関係者	国土交通省 三重河川国道事務所	所長	菅 良一
	三重県県土整備部	部長	水野 宏治
	津市都市計画部	部長	渡邊 公隆

第3回 津駅周辺道路空間検討委員会

津駅周辺道路空間の整備方針（案）について

令和4年3月1日

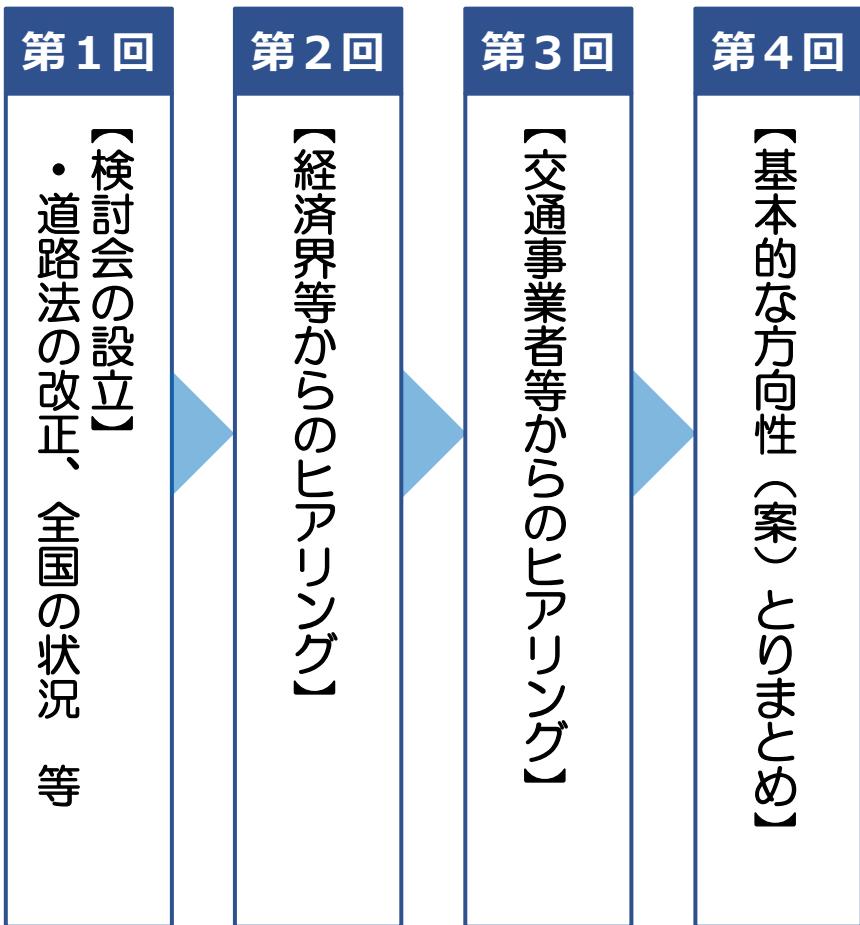
1. 「津駅周辺道路空間」におけるこれまでの検討経緯

(1) 「津駅周辺道路空間検討会」、「津駅周辺道路空間検討委員会」における検討経緯

- 道路法改正の動きを踏まえ、令和2年7月に、三重県の県庁所在地である津市の玄関口となっている津駅周辺において、駅周辺の活性化や防災等様々な視点から、駅周辺の道路空間について検討を行うことを目的に「津駅周辺道路空間検討会」を設立
- 津駅周辺道路空間検討会では、令和3年3月に「津駅周辺空間の基本的な方向性」としてとりまとめ、三重県・津市の連名で公表
- 令和3年7月、「津駅周辺空間の基本的な方向性」を踏まえた“津駅周辺道路空間の整備方針の策定”、“計画の具体化”を目的とし、「津駅周辺道路空間検討委員会」を設立

<津駅周辺道路空間検討会>

令和2年7月



令和3年3月

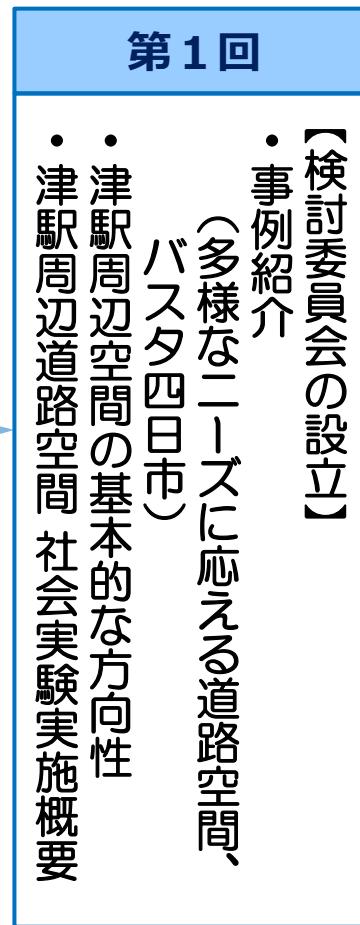


県民からの
意見募集

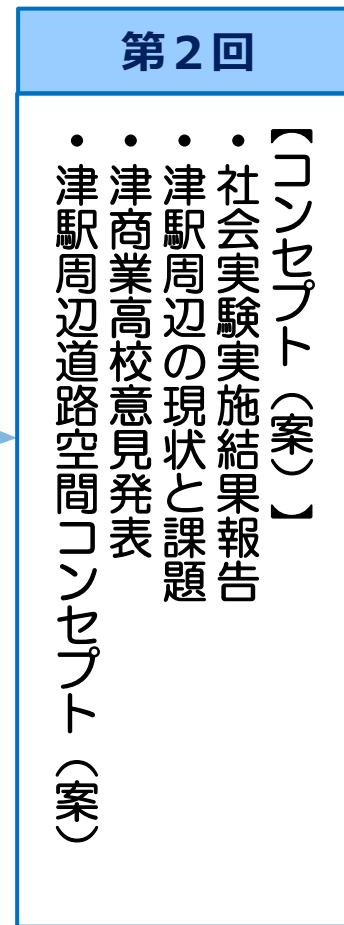
・津駅周辺空間の利活用等に関する提案募集
(R3/3/30~6/30)

<津駅周辺道路空間検討委員会>

令和3年7月

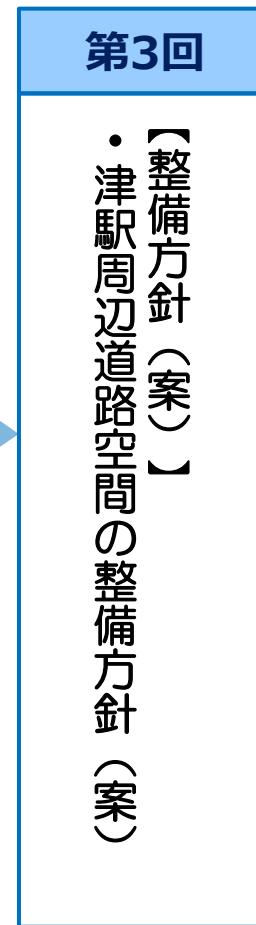


令和3年12月



・津駅周辺道路空間 社会実験 (R3/7/12~7/20)
・「歩道空間の利活用」と「車線減少による 交通への影響」についてのアンケート調査 (R3/7/12~7/31)

令和4年3月



空間検討会の構成

構成メンバー：三重県県土整備部長、津市都市計画部長
オブザーバー：国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所長

検討委員会の構成

学識者：小野寺一成 教授(三重短期大学)【委員長】
中平恭之 教授(近畿大学工業高等専門学校)
交通関係者：三重県トラック協会、三重県バス協会、三重県タクシー協会
経済関係者：津商工会議所、津市観光協会
行政関係者：国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所 所長、
三重県県土整備部 部長 津市都市計画部 部長

1. 「津駅周辺道路空間」におけるこれまでの検討経緯

令和2年度～

津駅周辺道路空間検討会（全4回）
・経済界、交通事業者などからのヒアリング
・基本的な方向性（案）とりまとめ



津駅周辺空間の基本的な方向性

県民からの意見

県民や企業等から、
様々な切り口で自由に提案

令和3年度～

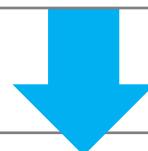
第1回 津駅周辺道路空間検討委員会
・事例紹介（ほこみち、バスタ）
・基本的な方向性の紹介
・社会実験の概要



第2回 津駅周辺道路空間検討委員会
・社会実験結果
・現状と課題の整理
・津商業高校の意見
・4つの基本コンセプト



第3回 津駅周辺道路空間検討委員会
・津駅周辺道路空間の整備方針（案）



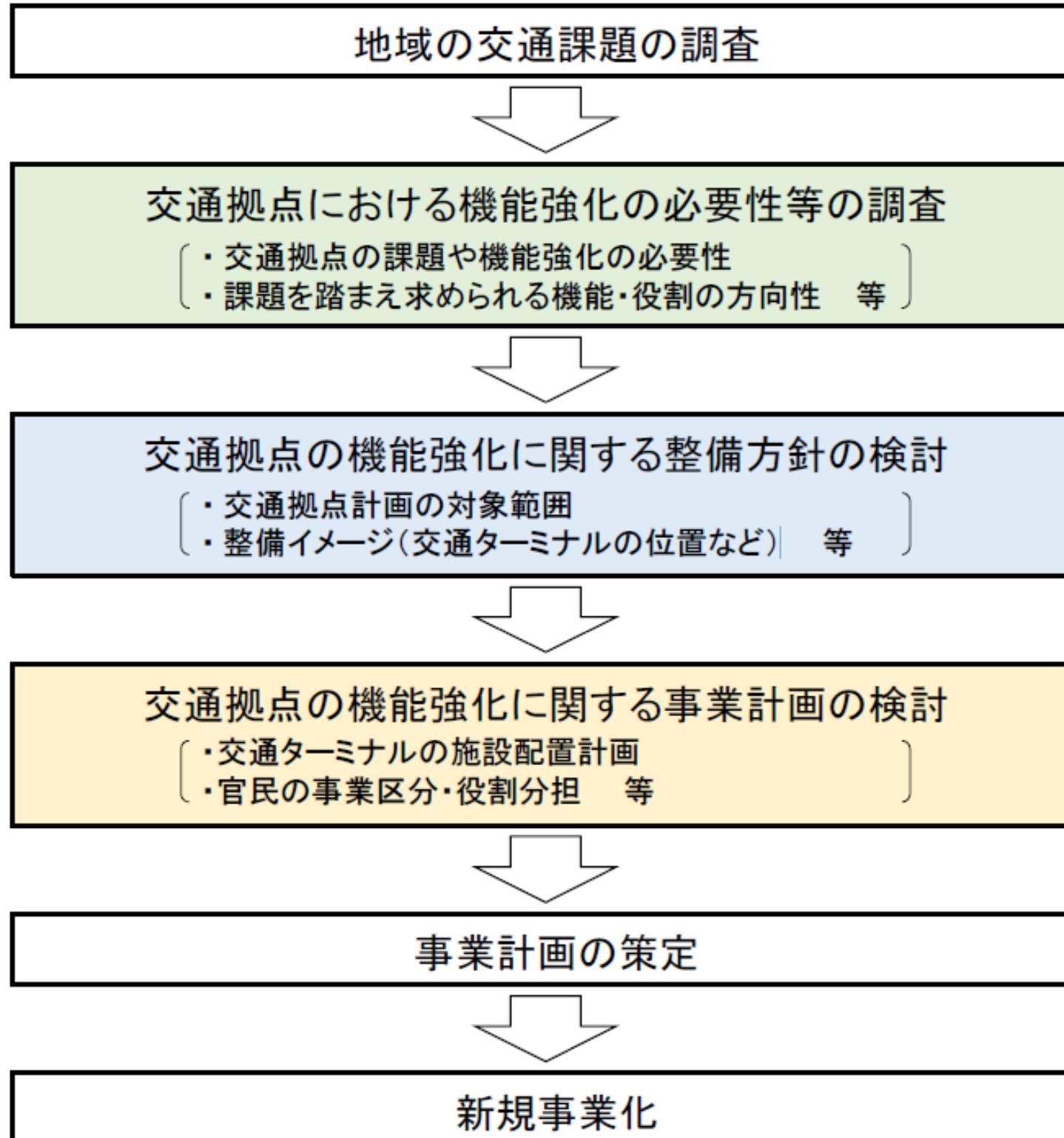
提案募集

社会実験

- ・交通への影響の調査
- ・歩道空間の利活用アンケート調査
- ・津駅道路空間全般に係る意見

2. 国土交通省における交通拠点整備に向けた検討の流れ

<交通拠点の調査の流れ>



3. 津駅周辺道路空間の基本コンセプト

(1) 4つの基本コンセプト

駅前空間の課題

バス利用者と歩行者との錯綜等

駅東口の浸水が想定

賑わい・滞留空間の不足

駅東西地域の分断

低い回遊性、来訪者への案内の不足

津駅と周辺地域との連携

目指す姿

みえ県都の顔となり、地域の活力を引き出し、災害にも強い空間

4つの基本コンセプト

三重の玄関口となる象徴的な空間に

- (例)
- ・県の魅力発信拠点
 - ・シンボリックなもの
 - ・交通結節拠点
 - ・駅前広場
 - ・東西自由通路
 - ・交通・観光の総合インフォメーション
 - ・MaaS
 - ・Wi-Fi
 - ・多言語化
 - ・道路の美装化

など

新しい出会い・発見がある空間に

- (例)
- ・イベントスペース
 - ・オープンカフェ
 - ・ベンチ等憩いの空間
 - ・キッチンカー
 - ・新たなモビリティ
 - ・バリアフリー
 - ・コワーキングスペース
 - ・子供が遊べるスペース
 - ・イルミネーション
 - ・生活利便施設
 - ・娯楽施設

など

大規模災害にも強く安全な空間に

- (例)
- ・帰宅困難者の支援
 - ・一時的な避難場所
 - ・避難誘導
 - ・代替交通の発着機能
 - ・非常用発電機
 - ・物資備蓄・供給機能
 - ・災害時の情報提供

など

カーボンニュートラルの実現に向けた空間に

- (例)
- ・県産木材の利用
 - ・太陽光発電など再エネ電源
 - ・EV充電器、蓄電池
 - ・水素ステーション
 - ・電動モビリティ
 - ・街路樹、花壇
 - ・自転車、駐輪場

など

新たな技術や仕組みを積極的に取り込みながら、継続的な進化

3. 津駅周辺道路空間の基本コンセプト

(2) 基本コンセプト (案) イメージ

三重の玄関口となる
象徴的な空間に



交通結節拠点



駅前広場



東西自由通路

など

新しい出会い・
発見がある空間に



イベントスペース



オープンカフェ



イルミネーション

など

大規模災害にも
強く安全な空間に



帰宅困難者の支援



代替交通の発着機能



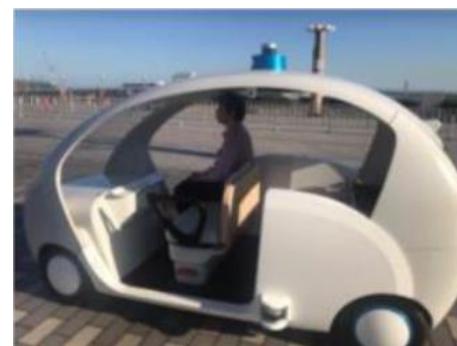
災害情報提供・避難誘導

など

カーボンニュートラル
の実現に向けた
空間に



太陽光発電



電動モビリティ



街路樹・花壇

など

4. 津駅周辺道路空間の整備方針について

津駅周辺道路空間の課題

バス利用者と歩行者との錯綜等

駅東口の浸水が想定

賑わい・滞留空間の不足

駅東西地域の分断

低い回遊性、来訪者への案内の不足

津駅と周辺地域との連携

【主な課題】歩行者との錯綜、バス停の点在、ロータリーの混雑

- 津駅は多様な交通モード(鉄道、路線バス、中・長距離バス、一般車、自転車)が集中するターミナル駅であり、公共交通の更なる利用促進を図るため、各交通モード間の交通結節機能の強化、利用者の利便性の向上を図る必要がある



バス利用者と歩行者との錯綜



駅周辺にバス停が点在



送迎車両による交通混雑の発生

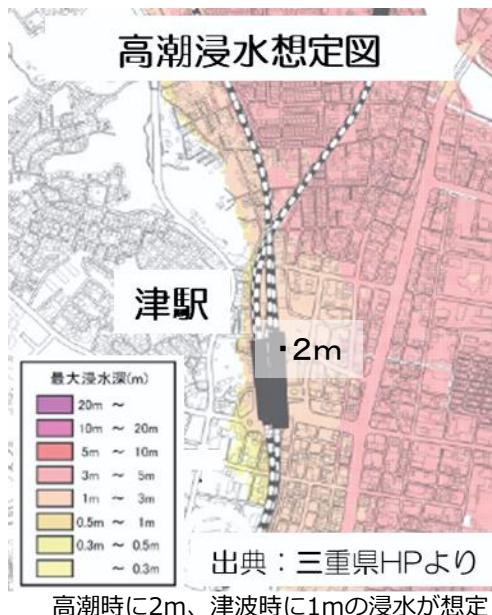
＜これまでいただいた主なご意見＞

- バス・タクシー・鉄道等の利用者の利便性を考えて、移動できる空間を設置してほしい。
- 東口ロータリーは一般車とタクシーが混在し、歩行者がロータリーを横断し危険である。ロータリーの二層化をしてほしい。
- ロータリーに通行人が多く危険なため、ロータリーの安全性の確保をお願いしたい。

など

【主な課題】高潮・津波等で浸水する予測

- 津駅東口は高潮・津波発生時に浸水が想定されており、東西連絡通路の浸水が懸念されるとともに、発災直後から復旧期などの状況などに応じて必要となる防災機能を導入する必要がある
- 復旧期における鉄道の代替交通としてのバスの活用などを検討する必要がある



東西連絡路が浸水の恐れ

＜これまでいただいた主なご意見＞

- 津波のほかに、震災や火災も考慮が必要。スクラップビルドだけではなく、耐震改修、防火設備など個別対応も可能。
- 大地震の発生に伴う津波が津駅まで到達すると予測されており、「災害に強いまち」という観点で考えた場合は、駅西側の開発も念頭において検討する必要があるのではないか。

など

4つの基本コンセプト

三重県の玄関口となる象徴的な空間

新しい出会い・発見がある空間

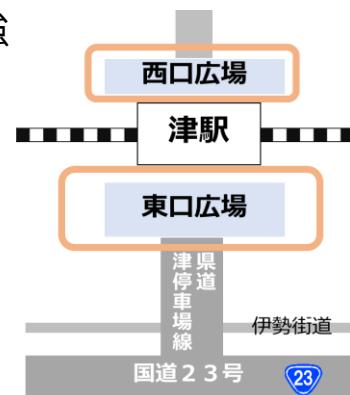
大規模災害にも強く安全な空間

カーボンニュートラルの実現に向けた空間

整備方針（案）1：公共交通の利便性の強化、浸水等の災害時の対応の強化

- バス停やタクシー・自家用車の乗降場を再構築することで、交通結節機能の強化を図る
- 東口駅前広場を立体的に活用した歩行者デッキなどを整備し、三重の玄関口となる象徴的な空間を創出する
- 災害時には、一時的な避難場所や帰宅困難者の受入空間としての活用や災害時の情報の提供・避難誘導等の拠点として利用し防災機能の強化を図る

※物流にも配慮



バスタ新宿



藤沢駅

4. 津駅周辺道路空間の整備方針について

津駅周辺道路空間の課題

バス利用者と歩行者との錯綜等

駅東口の浸水が想定

賑わい・滞留空間の不足

駅東西地域の分断

低い回遊性、来訪者への案内の不足

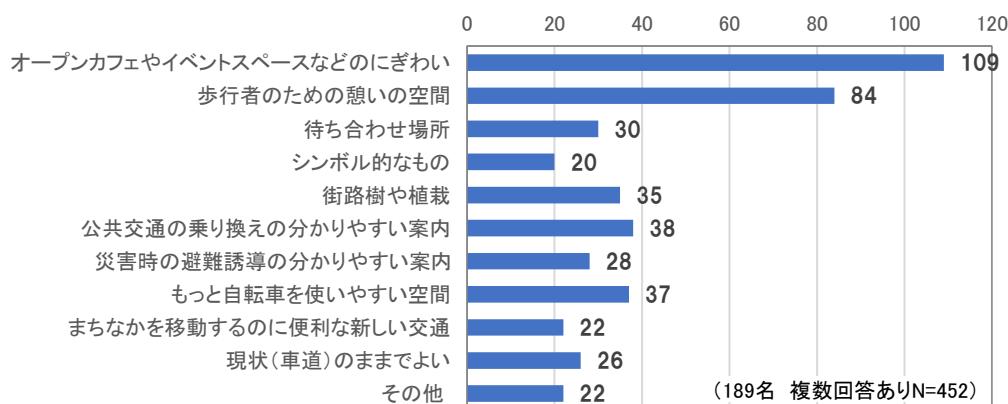
津駅と周辺地域との連携

【主な課題】歩行者の賑わいや滞留機能の不足

- 津駅はターミナル駅であり、バスやタクシー等の交通機能に特化しているものの、駅周辺には待ち合わせや集合場所となるような空間が不足
- 津地域においては、「商業の振興」や「都市機能の整備」についての市民不満度が高く、津駅周辺の活性化が要望されている状況
- 道路空間の再編や既存の周辺施設と連携を図りながら、明るく、緑豊かで、うるおいとゆとりのある空間の形成が必要
- 賑わいや滞留機能の拡充のため、津駅周辺の店舗等とも連携した持続的な取り組みを実施する必要がある

<道路空間利活用のアイデア：拡張する歩道空間へのニーズ>

◆「オープンカフェやイベントスペースなどのにぎわい」という意見が最も多く、次いで、「歩行者のための憩いの空間」を求める意見が多い状況



出典：社会実験アンケート調査結果

<これまでいただいた主なご意見>

- ・人の往来を作るために、人が集まれるようなイベントが開催できるスペースを作してほしい。
- ・新しい事業者が店を開きやすい空間づくりが必要。
- ・歩行者天国のような空間、少なくとも広い歩道があれば、賑わいが集まるのではないかと。
- ・広報・PRの拡充や、多様な観光施設との連携、バス路線の拡充などを図ることで、津市の魅力が増し、外部からの来訪者の増加・公共交通機関の利用増加が見込めるのではないかと。

社会実験を実施

歩道空間拡張に向けて県道を6車線から4車線に交通規制。⇒交通への大きな影響なし。



社会実験（交通への影響調査）

<これまでいただいた主なご意見>

- ・社会実験中の県道津停車場線周辺道路における駐停車の増加は問題だと考える。駅周辺における駐停車場の確保は重要。
- ・次年度の社会実験については、例えば、イルミネーションの実施や、高校生からの提案にあったゴミ箱を設置するなど、より具体的にワクワクするような実験になるよう、県としても検討していきたい。
- ・津駅は、常に一定量の学生が通学等で利用している状況であるが、駅周辺に高校生の居場所が少ないという意見があるため、次年度の社会実験ではそのような観点も踏まえて検討してほしい。
- ・社会実験の実施にあたっては、民間企業が参加した場合に経営が成立するのか、採算性が確保できるのかといった観点でも実験を行うべき。

4つの基本コンセプト

三重県の玄関口となる象徴的な空間

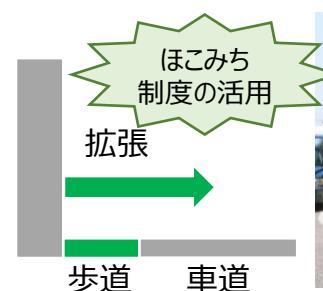
新しい出会い・発見がある空間

大規模災害にも強く安全な空間

カーボンニュートラルの実現に向けた空間

整備方針（案） 2：歩行者の賑わいや滞留機能の強化

- 駅東口においては、駅前広場の再編に加えて、駅前通りの空間再編による歩行空間の拡張や占用の緩和を通じた民間利用の促進により、地域の活力を引き出し、新しい出会い・発見がある空間を創出する



横浜市

4. 津駅周辺道路空間の整備方針について

津駅周辺道路空間の課題

バス利用者と歩行者との錯綜等

駅東口の浸水が想定

賑わい・滞留空間の不足

駅東西地域の分断

低い回遊性、来訪者への案内の不足

津駅と周辺地域との連携

【主な課題】 駅東西地域の分断

- 鉄道定期利用者を除いて駅舎内を通行できないため、地下通路、歩道橋、駅南側の踏切道を利用して、迂回しながら通行する必要がある
- 地下通路は活気が少なく、初めて津駅を訪れた方には、場所が分かりにくい、歩道橋は、バリアフリー未対応で利用者が少ない状況
- また、南北の踏切は歩道がなく危険で、遮断時間も長い状況
- 東西自由通路を整備し、津駅利用者の利便性向上に加え、新たな人の流れを作り、津駅における東西地域間の交流の促進、回遊性の向上を図る必要がある

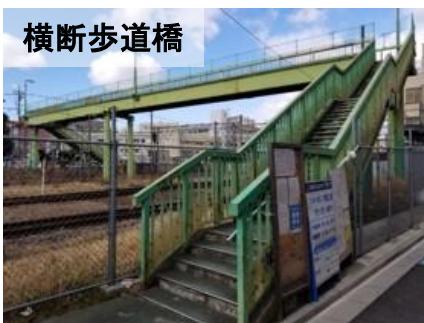
＜これまでいただいた主なご意見＞

- ・地下道や歩道橋があるが、駅東西の往来が不便である。駅舎に接続するような自由通路があれば、東西の回遊性も向上する。
- ・西口・東口の往来のための迂回路案内図がない。歩道橋は利用しにくく暗い。地下道は通りにくい雰囲気がある。
- ・にぎわいの創出、鉄道利用者の利便性向上のため自由通路が必要。
- ・自由通路は災害時の避難場所にもなる。
- ・既存の駅ビルの構造では東西の街が分断され商業、ビジネスの東口と文化、教育の西口の様相がある。歩道空間の拡張だけでなく駅ビルも含め駅の東西を結ぶ街づくり。

など



活気が少なく、分かりにくい



バリアフリー未対応



歩道がなく危険で、遮断時間も長い

4つの基本コンセプト

三重県の玄関口となる象徴的な空間

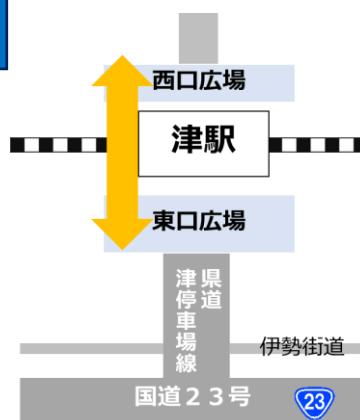
新しい出会い・発見がある空間

大規模災害にも強く安全な空間

カーボンニュートラルの実現に向けた空間

整備方針（案） 3：東西連携の強化

- 駅の東口と西口を直結する東西自由通路を整備することで、東西歩行者交通の円滑化や 駅利用者の利便性の向上に加え、新たな人の流れを作り、東西地域間の交流の促進を図る



Youtube「NiigataCityChannel」より引用

4. 津駅周辺道路空間の整備方針について

津駅周辺道路空間の課題

バス利用者と歩行者との錯綜等

駅東口の浸水が想定

賑わい・滞留空間の不足

駅東西地域の分断

低い回遊性、来訪者への案内の不足

津駅と周辺地域との連携

【主な課題】低い回遊性、来訪者への案内の不足

- 現在の案内看板等は、津駅の東口・西口がそれぞれ独立した案内となっており、津駅の東口・西口間の連携を示した案内が行われていない状況
- また、駅周辺の飲食店などの既存施設の案内看板や長距離バス乗り場の案内が不足しているため、津市外からの来訪者には分かりにくい状況
- 中通りに入ると、夜は街灯が少なく暗い状況
- 来街者が津駅周辺の空間を、楽しみながら回遊し、安心して滞在できる空間づくりが重要

＜これまでいただいた主なご意見＞

- ・サイン等は広告代理店が広告掲載の代わりに現物提供、植栽等は住民、企業等から協力を得るなど行政以外の手法も検討されたい。
- ・踏切は、歩行者・自転車・車と大変危険である。踏切の拡幅と歩道橋の様な自転車も上られる幅の2階以上の通路空間と地下道の拡幅と車いすやベビーカー、自転車も乗れるエレベーターの整備を望む。
- ・建築物、街路のほか、各施設の境界、導線を含めデザインが重要である。
- ・芝生を用いた高校生、家族連れ、お年寄りなどがゆっくりできるスペースが欲しい。特に高校生はSNS向けの写真を撮ることが多く、卒業シーズンになれば制服で写真を撮ることができる機会も限られてくる中で、芝生のような良い景色で撮ることができればよいと考えている。
- ・高齢者に優しい駅前空間にしてほしい。

など



街灯が少なく暗い

東口・西口ともそれぞれ独立した案内看板

4つの基本コンセプト

三重県の玄関口となる象徴的な空間

新しい出会い・発見がある空間

大規模災害にも強く安全な空間

カーボンニュートラルの実現に向けた空間

整備方針（案）4：駅周辺の回遊性の強化

- ICTを活用した分かりやすい案内看板の設置、植栽や美化活動の協働の取組、街灯の充実により、誰もが安心して楽しく歩ける環境を整え、駅周辺の回遊性の強化を図る



デジタルサイネージ



等

4. 津駅周辺道路空間の整備方針について

津駅周辺道路空間の課題

バス利用者と歩行者との錯綜等

駅東口の浸水が想定

賑わい・滞留空間の不足

駅東西地域の分断

低い回遊性、来訪者への案内の不足

津駅と周辺地域との連携

【継続的な進化に向けて】

- ハード整備だけでなく、新たな技術やサービスを活用し、周辺地域や観光拠点等への、より利便性の高い広域的な移動を支援できる仕組みづくりを検討
- 基本コンセプトのもと、上記を踏まえ継続的な進化をはかれるよう、今後も検討を継続

＜これまでいただいた主なご意見＞

- ・中心市街地へ人を集めるために、まずはお店を知ってもらうソフト事業を行っている。人づくりが重要である。
- ・マネジメントは、官民連携のほか、ストック活用、規制緩和など既存フレームを活用し、独自コンテンツの創出をしてほしい。
- ・花やイルミネーション、魅力的な店舗など、人を引き付ける仕掛けが必要で、それを持続させる仕組み(お金と労力)が必要。
- ・自動運転も見据えて大門など他地域への波及効果も期待している。
- ・バリアフリーなど障がい者の方への配慮を構想の段階から入れてほしい。
- ・シンボリックな駅前活用に期待しますが、後々、広い歩道が残るような事にならないよう、活用の継続性についても考えてほしい。
- ・自動運転などの新たな技術について他府県地域のモデルになるような先進的なものを実験的に取り入れてみてほしい。
- ・施設には県産木材を活用してほしい。

など

＜カーボンニュートラルの実現に向けた空間のイメージ＞

- ・県産木材の利用、太陽光発電などの再エネ電源、EV充電器、蓄電池、水素ステーション、電動モビリティ、街路樹、花壇、自転車、駐輪場など

ソフト施策

官民協働による
マネジメント

ユニバーサル
デザイン

DX

カーボン
ニュートラル

周辺地域
との連携

4つの
基本コンセプト

三重県の玄関口となる
象徴的な空間

新しい出会い・
発見がある空間

大規模災害にも強く
安全な空間

カーボンニュートラルの
実現に向けた空間

整備方針（案）5：ソフト・ハード一体となった取組の推進

- 整備を進めるにあたり、民間のアイデア、ノウハウ等を取り入れた官民協働によるマネジメント、バリアフリーをはじめ多くの方々が利用可能なユニバーサルデザイン、MaaSやスマートシティなど交通や街づくりと一体となったデジタル化、津新町駅・大門・丸之内周辺等の近隣地域との連携、県内各都市との連携の強化を図る
- 県産木材の利用や再エネ電源の活用などカーボンニュートラルの実現に向けた取組を進め、未来志向で新たな技術や仕組みを積極的に取り込み継続的な進化を図る



津駅周辺道路空間の整備方針（案）

国土交通省
三重県
津市

現在の津駅周辺空間が形成されてから約半世紀が経過し、未来を見据えた更なる発展を実現するため、新たなステージへ進化していく必要があります。三重県・津市は、駅周辺空間の再編に向けて令和3年3月に「津駅周辺空間の基本的な方向性」を策定しました。

このたび、国土交通省・三重県・津市は、「みえ県都の顔となり、地域の活力を引き出し災害にも強い空間」の創出に向け、「津駅周辺道路空間の整備方針（案）」を取りまとめました。今後は関係者と調整のうえ具体化を図ります。

1. 公共交通の利便性の強化、浸水等の災害時の対応の強化

バス停やタクシー・自家用車の乗降場を再構築することで、交通結節機能の強化を図ります。また、東口駅前広場を立体的に活用した歩行者デッキなどを整備し、三重の玄関口となる象徴的な空間を創出します。

災害時には、一時的な避難場所や帰宅困難者の受入空間としての活用や災害時の情報の提供・避難誘導等の拠点として利用し防災機能の強化を図ります。

2. 歩行者の賑わいや滞留機能の強化

駅東口においては、駅前広場の再編に加えて、駅前通りの空間再編による歩行空間の拡張や占用の緩和を通じた民間利用の促進により、地域の活力を引き出し、新しい出会い・発見がある空間を創出します。

3. 東西連携の強化

駅の東口と西口を直結する東西自由通路を整備することで、東西歩行者交通の円滑化や駅利用者の利便性の向上に加え、新たな人の流れを作り、東西地域間の交流の促進を図ります。

4. 駅周辺の回遊性の強化

ICTを活用した分かりやすい案内看板の設置、植栽や美化活動の協働の取組、街灯の充実により、誰もが安心して楽しく歩ける環境を整え、駅周辺の回遊性の強化を図ります。

5. ソフト・ハード一体となった取組の推進

整備を進めるにあたっては、民間のアイデア、ノウハウ等を取り入れた官民協働によるマネジメント、バリアフリーをはじめ多くの方々が利用可能なユニバーサルデザイン、MaaS やスマートシティなど交通や街づくりと一体となったデジタル化、津新町駅・大門・丸之内周辺等の近隣地域との連携、県内各都市との連携の強化を図ります。

県産木材の利用や再エネ電源の活用などカーボンニュートラルの実現に向けた取組を進め、未来志向で新たな技術や仕組みを積極的に取り込み継続的な進化を図ります。

地方都市が主役のポストコロナ時代において

みえ県都の顔となり、地域の活力を引き出し、災害にも強い空間へと再生

(1) 公共交通の利便性の強化
災害時の対応の強化

- ・ 交通結節機能の強化
(バス停、タクシー・自家用車乗降場の再構築)
- ・ 歩行者デッキなどの整備 (東口)



<物流にも配慮>

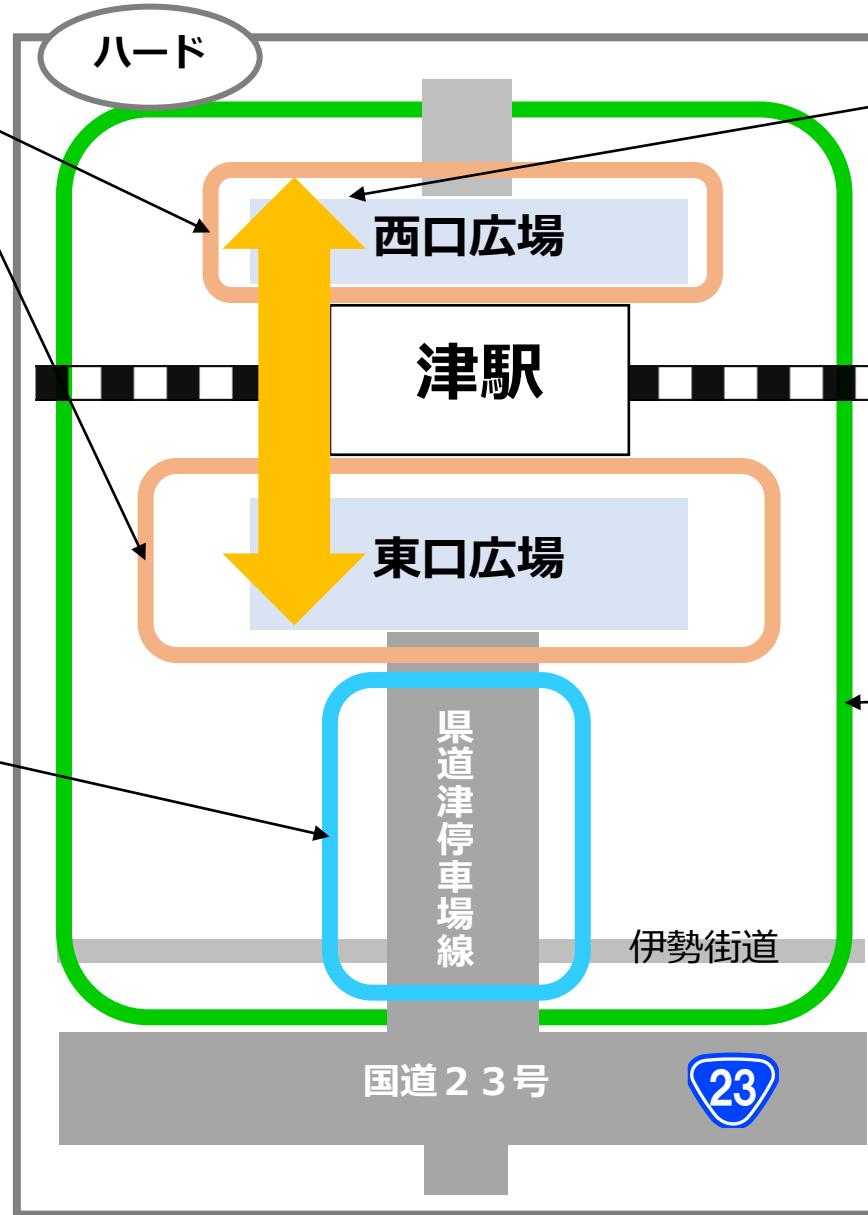
等

(2) 歩行者の賑わいや滞留の強化

- ・ 駅前通りの歩行空間の拡張
- ・ 占用の緩和を通じた民間利用の促進



等



(3) 東西連携の強化

- ・ 東西自由通路の整備
(東西を快適に移動し、交流を高める)



(4) 駅周辺の回遊性の強化

- ・ ICTを活用した案内看板の設置
- ・ 植栽や美化活動の協働の取組
- ・ 街灯の充実



ソフト

官民協働による
マネジメント

ユニバーサル
デザイン

DX

カーボン
ニュートラル

周辺地域
との連携

※写真はイメージであり整備内容を決定するものではありません

新たな技術や仕組みを積極的に取り込みながら、継続的な進化

津駅周辺道路空間の主な課題

(1) 公共交通：歩行者との錯綜、バス停の点在、ロータリーの混雑

バス利用者と歩行者との錯綜

バス利用者の待ち行列と歩行者導線が錯綜。

駅周辺にバス停が点在

中長距離バスや路線バスの乗降場が東西の県道上に立地。

送迎車両による交通混雑の発生

送迎車両の多くが駐停車禁止スペースに一時停車。

ロータリー内やロータリー接続路で交通を阻害。

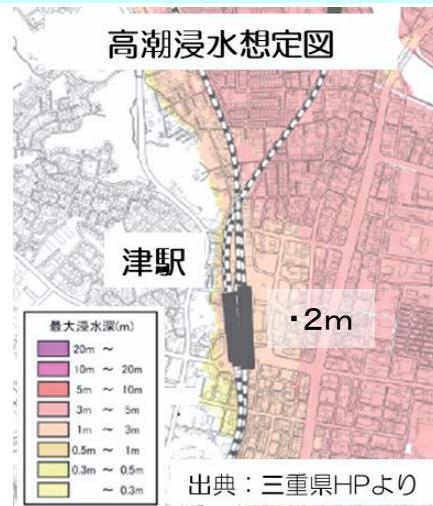


(2) 防災：高潮・津波で浸水する予測

高潮時に2m、津波時に1mの浸水が想定
避難場所や帰宅困難者の受入れ拠点整備、
鉄道の代替としてのバス交通の活用等の検討が必要。

東西連絡通路が浸水の恐れ

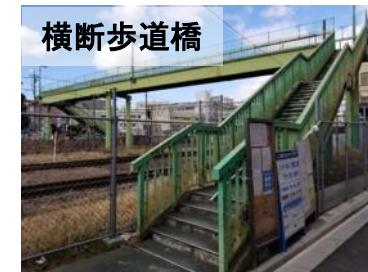
浸水により地下道が利用できなくなる可能性がある。



(4) 東西軸：駅舎を自由に通行できない

駅東西地域の分断

津駅の東口と西口を往來する場合、鉄道定期利用者を除いて駅舎内を通行できないため、地下通路、横断歩道橋、駅南側の踏切道を利用して、迂回しながら通行する必要がある。



活気が少なく、分かりにくい

バリアフリー未対応

歩道がなく危険で、遮断時間も長い

(3) 賑わい：賑わいや滞留空間の不足

待ち合わせや集合場所が不足

「歩道空間活用のニーズ調査」では、賑わいや滞留空間についてのニーズが多かった。

Q: 拡張した歩道空間に求めることはなんですか。



社会実験を実施

歩道空間拡張に向けて県道を6車線から4車線に交通規制。
⇒交通への大きな影響なし。



社会実験 (交通への影響調査)

(5) 回遊：駅周辺の案内が不足、夜は暗い

来街者への案内の不足

津駅の東口・西口ともに独立した案内板となっており、来街者には分かりにくい状況。また、中通りに入ると、夜は街灯が少なく暗い状況。安心して楽しく歩ける環境を考えていく必要がある。



東口・西口ともそれぞれ独立した案内看板

街灯が少なく暗い

第3回 津駅周辺道路空間検討委員会

津駅周辺道路空間に対する主なご意見について

令和4年3月1日

3. 津駅周辺道路空間に対する主なご意見（その1）

大項目	中項目	連番	意見	備考
公共交通の利便性の強化の観点	ロータリー	1	東口ロータリーは一般車とタクシーが混在し、歩行者がロータリーを横断し危険である。ロータリーの二層化をしてほしい。	経済
		2	津駅東口に荷捌きスペースや駐車スペースなども確保してほしい。	交通
		3	東口ロータリーの使い勝手はよい。	交通
		4	西口はロータリーが狭く、バス、タクシー、乗用車が輻輳し、常に混雑し、事故の危険性が高いため、ロータリーの再生をお願いしたい。	交通
		5	ロータリー内外のバスやタクシー待機機能を東北側へ退避し、東西ロータリーを統廃合するなどをゼロベースで検討されたい。	一般
		6	バス・タクシー・鉄道等の利用者の利便性を考えて、移動できる空間を設置してほしい。	交通
		7	一般車両とバス・タクシーを切り離れたロータリーで、歩行者が安全に利用できるようにしてほしい。	経済
		8	車やバスを地下に入れ、地上は広場にして交流の場をつくりたい。	提案
		9	西口ロータリーを立体構造とし2Fにバスターミナルを設置する。	提案
		10	津駅東口ロータリーは、地上階を一般車用・タクシー用に分離し、高架階を連絡自由通路と連携した歩行者用とし、広場を設け憩いの場・イベント広場等とする。	提案
	バス停の集約	11	駅周辺に大型バスが停められないため、大型観光バスの駐車場の整備をお願いしたい。	経済
		12	高速バス等の停留所が分散しており、活用の拡大のために、ロータリーを改変して2階部を作る必要がある。	県議
		13	バス停はロータリー側にまとめて欲しい。	実験
		14	栄町3丁目のバス停を廃止し津駅前を利用する。	実験
	歩行者の安全性・円滑性	15	ロータリーに歩行者が多く危険なため、ロータリーの安全性の確保をお願いしたい。	経済
		16	駅からの導線確保	実験
	歩行者デッキ	17	ペDESTリアンデッキは、歩行者が分散し閑散となる、下部空間が雰囲気や治安上良くないなど悪影響があり、合理的でない。	一般
		18	津駅やアスト津等、各ビルの2階に直結するような歩道橋。そのような連絡通路の用地としての活用。	実験
		19	可能であればペDESTリアンデッキにより水戸駅のような公園化	実験
		20	デッキ化による歩車分離は時代錯誤でむしろ街の発展に障害になる。	提案
		21	岐阜駅北口のような歩行者デッキを整備する。	提案
	必要機能・施設	22	駅の発車案内表示を東西両方の改札口等に設けるべきである。	一般
		23	電光表示でバス乗り場、所要時間等をわかりやすく案内すべきである。	一般
		24	バスはIT化し、電光掲示板を東口・西口に設置する。	提案
	その他	25	駅周辺が機能的に整備されているか、人に優しい空間となっているかは、企業の進出や人々の移動を考える際の重要な要素である。	県議
		26	県庁の坂までを鉄道敷のうえを高架橋にし、通常は、バスターミナルか駐車場として活用し、非常時には避難場所としてはどうか。	提案
		27	一部の道路は歩道を拡張、遊歩道へ転用するなど、その隅に駐輪場を確保するなどの工夫も必要だと思う。	一般
		28	自家用車の進入規制、駐車場の外縁部への集積化など、規制や誘導も必要だと思う。	一般
		29	白子駅のように自転車置き場を設置してほしい。	提案
	浸水等の災害時の対応の強化の観点	30	津波のほかに、震災や火災も考慮が必要。スクラップビルドだけではなく、耐震改修、防火設備など個別対応も可能。	一般
		31	大地震の発生に伴う津波が津駅まで到達すると予測されており、「災害に強いまち」という観点で考えた場合は、駅西側の開発も念頭において検討する必要があるのではないか。	委員会
		32	チャムを増築し4～5Fを交流防災ターミナルとして活用する。	提案
		33	帰宅困難者の受け入れ、東口より海側に住居を構える市民の避難場所。例えば、高潮に備えて高齢者施設をアスト等の高層階へ	提案

備考	意見発言者	備考	意見発言者
経済	津駅周辺道路空間検討会(R2年度):商工者関係	一般	津駅周辺空間の基本的な方向性案に関する県民からの意見(R3年3月)
交通	津駅周辺道路空間検討会(R2年度):交通事業者	提案	津駅周辺空間の利活用等に関する提案募集(R3年6月)
県議	三重県議会議員(R2年度)	実験	「歩道空間の利活用」と「車線減少による交通への影響」についてのアンケート調査(R3年7月)
市議	津市議会議員(R2年度)	委員会	第2回津駅周辺道路空間検討委員会(R3年12月)

3. 津駅周辺道路空間に対する主なご意見（その2）

大項目	中項目	連番	意見	備考
歩行者の賑わいや滞留機能の強化の観点	今年度の社会実験	34	社会実験期間中、停車場線の信号からロータリーに至るまでの導流路での駐停車が非常に多かった。もともとタクシーと一般車両との接触事故が多数発生しているため、長期間の社会実験により駐停車車両が増加した場合、接触事故の増加が懸念される。	委員会
		35	社会実験中に県道津停車場線から内側の街区で駐停車が増加したことは問題だと考える。津駅周辺における駐停車場所の確保は重要。	委員会
	次年度以降の社会実験	36	次年度の実験については、例えば、イルミネーションの実施や、高校生からの提案にあったゴミ箱を設置するなど、より具体的にワクワクするような実験になるよう、県としても検討していきたい。	委員会
		37	多くの方が来訪していただける催しを津駅周辺で実施し、催しの実施に合わせて、来訪者がどれくらい公共交通機関を利用状況を把握してはどうか	委員会
		38	社会実験の実施にあたっては、民間企業が参加した場合に経営が成立するのか、採算性が確保できるのかといった観点でも実験を行うべき。	委員会
		39	津駅は、常に一定量の学生が通学等で利用している状況であるが、駅周辺に高校生の居場所が少ないという意見があるため、次年度の実験ではそのような観点も踏まえて検討してみてもどうか。	委員会
		40	社会実験の対象エリアが通学路に該当しているため、今後検討を行う中で、小学生の通学等の妨げとならないことが一番だと考える。	委員会
		41	津駅周辺は「暗い」イメージが強く、ライトアップで来場者が増加した白川郷のように、来訪のきっかけの一つとして「光の効用」が大きいと思われる。イルミネーションの実施など、そういった観点を踏まえ、地域の方にご意見をいただきながら検討してはどうか。	委員会
	イベントスペース等の整備	42	人の往来を作るために、人が集まれるようなイベントが開催できるスペースを作ってほしい。	経済
		43	駅前にライブやコンサートスペースを作ってほしい。	一般
		44	駅前広場を整備し、いろいろな集会やイベントを行い津市の賑わい拠点を形成する。	提案
	県道道路空間の再編	45	道路空間を再編し、新たな価値をつくる人中心の駅前ストリートにする。	提案
		46	道路空間を再編し、中央分離帯を設けて憩いのスペースとし活用する。地下には駐車スペースを設けバス停をつくる。	提案
	企業誘致等	47	新しい事業者が店を開きやすい空間づくりが必要。	経済
		48	若者や一般の方にとって魅力あるお店や、駅前に百貨店などを誘致するなど「津駅に行きたい」思っただけの施策が必要である。	委員会
	その他	49	歩行者天国のような空間、少なくとも広い歩道があれば、賑わいが集まるのではないか。	経済
		50	広報・PRの拡充や、多様な観光施設との連携、バス路線の拡充などを図ることで、津市の魅力が増し、外部からの来訪者の増加・公共交通機関の利用増加が見込めるのではないか。	委員会
		51	歩道空間拡張の意図が、市民に伝わっていないし、市民もその必要性を感じていない。	実験
		52	地域全体を花見スポットとするような取組はできないか。	一般
		53	大型ビジョンの設置による賑わいの創出	提案
	東西連携の強化の観点	駅ビル・駅舎との連結	54	地下道や歩道橋があるが、駅東西の往来が不便である。駅舎に接続するような自由通路があれば、東西の回遊性も向上する。
55			駅の東口と西口の連絡通路など駅ビルと一体的な構想を検討すべき。	実験
56			既存の駅ビルの構造では東西の街が分断され商業、ビジネスの東口と文化、教育の西口の様相がある。歩道空間の拡張だけでなく駅ビルも含め駅の東西を結ぶ街づくりが重要	実験
自由通路の要望		57	東西の自由通路を作ってほしい。	経済
		58	にぎわいの創出、鉄道利用者の利便性向上のため自由通路が必要。	交通
		59	自由通路は災害時の避難場所にもなる。	交通
		60	東西を自由に行き来できる自由通路があれば、東口バスと西口バスの乗り換えなどが分かりやすくなる。	交通
		61	東西の自由通路を設けることを検討する。	提案
その他		62	バス停が東口、西口と分かれており東西が分断されている。東西連携の視点が重要と考える。	県議
		63	東西改札口の通り抜けのみ可能にするICカードを導入してはどうか。	一般
		64	居住区は西に多く商業施設は東に多いが、それを繋ぐ道路が一本だけで移動しにくい。歩行者だけでなく、車の移動のし易さも考えて欲しい。	一般
		65	西口・東口の往来のための迂回路案内図がない。歩道橋は利用しにくい。地下道は通りにくい雰囲気がある。	一般
		66	駅西口との一体的な活用と大門・丸之内エリアを含めて検討	実験
		67	東西をつなぐ道路の立体化をしてほしい。	提案

備考	意見発言者	備考	意見発言者
経済	津駅周辺道路空間検討会(R2年度):商工者関係	一般	津駅周辺空間の基本的な方向性案に関する県民からの意見(R3年3月)
交通	津駅周辺道路空間検討会(R2年度):交通事業者	提案	津駅周辺空間の利活用等に関する提案募集(R3年6月)
県議	三重県議会議員(R2年度)	実験	「歩道空間の利活用」と「車線減少による交通への影響」についてのアンケート調査(R3年7月)
市議	津市議会議員(R2年度)	委員会	第2回津駅周辺道路空間検討委員会(R3年12月)

3. 津駅周辺道路空間に対する主なご意見（その3）

大項目	中項目	連番	意見	備考
駅周辺の回遊性の強化の観点		68	百五明生ビル付近の地下道が活用されているか疑問である。	経済
		69	建築物、街路のほか、各施設の境界、導線を含めデザインが重要である。	一般
		70	サイン等は広告代理店が広告掲載の代わりに現物提供、植栽等は住民、企業等から協力を得るなど行政以外の手法も検討されたい。	一般
		71	踏切は、歩行者・自転車・車と大変危険である。踏切の拡幅と歩道橋の様な自転車も上がれる幅の2階以上の通路空間と地下道の拡幅と車いすやベビーカー、自転車も乗れるエレベーターの整備を望む	実験
		72	芝生を用いた高校生、家族連れ、お年寄りなどがゆっくりできるスペースが欲しい。特に高校生はSNS向けの写真を撮ることが多く、卒業シーズンになれば制服で写真を撮ることができる機会も限られてくる中で、芝生のような良い景色で撮ることができればよいと考えている。	委員会
		73	高齢者に優しい駅前空間にしてほしい。	経済
		74	圏域独自の看板、標識等を通じて文化的歴史的景観を整理する。	提案
		75	パブリックアートを取り入れた芸術のある生活空間づくり、音楽のあるまちづくり	提案
		76	津駅周辺の建物に統一感を持たせるなど、景観街並みの統一を図る。	提案
		77	建物・停留所に上部屋根を設置する。歩道上部にも庇のような雨除け、夏場の日差し除けを設置する。	提案
ソフト施策	ソフト事業	78	整備と同時進行でソフトづくりをしていかないと利用されない。津駅から大門丸之内への波及効果も考えないといけない。	経済
		79	中心市街地へ人を集めるために、まずはお店を知ってもらうソフト事業を行っている。人づくりが重要である。	経済
	官民協働・連携・仕組み	80	行政は民間と協働し、環境整備や仕組の整備に適切な規模で投資し、不動産価値を高め、税金等で回収するというサイクルが健全。	一般
		81	Park-PFIはじめ、公園や道路隅などの使用のほか、屋台など簡易建築の設置、占用&営業許可に係る規制を緩和するなど、民間や住民の意欲を引き出し、雰囲気のある空間を創ることも必要。	一般
		82	マネジメントは、公民連携のほか、ストック活用、規制緩和など既存フレームを活用し、独自コンテンツの創出をしてほしい。	一般
		83	事業の品質を高めるために、民間の資金、企画力などを活用し、行政は調整、支援の役割での活躍を期待。	一般
		84	花やイルミネーション、魅力的な店舗など、人を引き付ける仕掛けが必要で、それを持続させる仕組み（お金と労力）が必要。	実験
		85	オープンカフェが望ましいが、店舗の立地、協力が必要。	実験
		86	シンボリックな駅前活用に期待しますが、後々、ただ広い歩道が残るような事にならないよう、活用の継続性についても考えてほしい。	実験
		87	拡げた歩道空間をいかに持続的に活用していくか、ソフト面での賛同者の広がりや仕組みづくりが必要。	実験
	88	拡張した歩道空間がバス停等で分断されており、細切れなので利活用が限定される印象。津駅前には寂れているので鉄道事業者や、まちづくりの担い手である津市とも連携して活性化に繋げてもらいたい。	実験	
	89	県道津停車場線よりも南側の飲食店エリアに、カフェテラスができるような道路整備と通行規制を、県だけでなく津市・店舗関係と協調して地域生活整備を。	実験	
	ユニバーサルデザイン	90	バリアフリーなど障がい者の方への配慮を構想の段階から入れてほしい。	一般
		91	駅周辺は高齢者だけでなく、障がい者、小学校中学校の通学路になっていることも考慮してほしい。	一般
		92	バリアフリー化の推進	提案
	DX	93	自動運転などの新たな技術について他府県地域のモデルになるような先進的なものを実験的に取り入れてみてほしい。	一般
		94	東西駅回遊型で自動運転を取り入れてはどうか。	提案
	カーボンニュートラル	95	施設には県産木材を活用してほしい。	一般
		96	MaaS及び周辺地域連携については、カーシェアの普及やシェアサイクルの誘致なども有効である。	一般
周辺地域との連携	97	駅からの二次交通の連携が乏しい。民間無料バスと連携して、活性化をはかるべきである。	一般	
	98	バス料金を割引するなど津駅から三重会館前間をコミュニティバス感覚で利用できるようにして、人の流れを促進すべきである。	一般	
	99	自動運転も見据えて大門など他地域への波及効果も期待している。	一般	
	100	津駅を高田本山、津観音などへの観光拠点とする	提案	

備考	意見発言者	備考	意見発言者
経済	津駅周辺道路空間検討会(R2年度):商工者関係	一般	津駅周辺空間の基本的な方向性案に関する県民からの意見(R3年3月)
交通	津駅周辺道路空間検討会(R2年度):交通事業者	提案	津駅周辺空間の利活用等に関する提案募集(R3年6月)
県議	三重県議会議員(R2年度)	実験	「歩道空間の利活用」と「車線減少による交通への影響」についてのアンケート調査(R3年7月)
市議	津市議会議員(R2年度)	委員会	第2回津駅周辺道路空間検討委員会(R3年12月)

3. 津駅周辺道路空間に対する主なご意見（その4）

大項目	中項目	連番	意見	備考
検討の進め方	意見聴取	101	アンケート形式で付近住民・ビジネス・学生にも意見を求めるなどもっと広く意見を聞いてほしい。	一般
		102	歩道のカフェ利用は大変迷惑。飲食店にはいいけど、歩く人には邪魔だしうるさい。営業者の意見ばかり聞かずに住む人の意見も入れてほしい。	実験
		103	ゴミ等環境問題、地元住民の意見も幅広く考慮してほしい。中途半端はこまる。治安が悪くなるのはこまる。	実験
		104	地域の声や民間事業者の声もしっかり聞いて様々な議論がなされることを期待している。	市議
	イメージ・コンセプト	105	街づくりのコンセプトは？津市の都市計画税を有効に使う	実験
		106	津駅周辺道路空間の目標、空間全体の将来像が関係者間で共有できれば、より効率的に連携した取り組みが行えるのではないかと。	委員会
	情勢	107	駅周辺の空間は、駅前の都市開発や区画整理事業を組み入れながら40年、50年が経過し、道路幅も含めて住民の感覚も変わってきている。今後10年ほどの間に、駅ビルや周辺ビルが更新時期を迎えることを見据えながら、土地利用のあり方を見直し、都市機能を充実させていくことが必要。	市議
		108	アフターコロナ、ウィズコロナと言われているが、新しい生活様式が広がり津市のまちづくりも大きく状況が変わってきているので、こうした中での議論が必要。	市議
		109	アスト津のオープンから既に19年が経過しており、まさに整理をするタイミングに来ている。	市議
		110	リニアの拠点が亀山に出来ることを踏まえ、駅ビルやJRにしっかりと働きかけ、将来を見据えた取組を目指してほしい。	市議
	現状把握・課題整理	111	駅周辺の交通や賑わいなどについて、しっかり現状を分析したうえで課題を設定し、その解決に向けた方向性を見出してほしい。	交通
		112	車の往来が減少した理由など課題の真因を考え、導き出すべきであり、安易に目先の現象に対して改善しても何も良くならない。	一般
	その他	113	津駅周辺が、時代のニーズに合った交通拠点や人々が集まる賑わい空間になれば、活性化の一つになる。	市議
		114	国の施策の全国展開に合わせた今回の取組は、津市にとっては願ってもないチャンス。	市議
		115	道路空間のみならず、津駅前の都市機能のあり方も含めて議論を。	市議
		116	中心市街地をめぐる問題も表出しており、津駅前のみならず、大門・丸之内地区や新町地区まで含んだ津市の中心市街地エリアのあり方全体について、中身の議論をしていく時期に来ている。	市議
		117	先進的な技術の取り入れなど、新たな取組に果敢に挑んでいくことが大切。	市議
		118	津駅周辺へ三重短期大学を移設し、若者の交流ゾーンを作るなど、交流のゾーニングを考え直していくことが必要。	市議
		119	津駅北側の近鉄変電所も区画整理事業により移転し、駅前が良い空間になってきたので、津の玄関口として、前に進められるようお願いしたい。	市議
		120	今使っている人に聞いても大きな変化が思い浮かぶ人はいない。将来のまちづくりを考える人が関係者とエイトと変革することで使う人は使う人で「あーこーなったんだ」って思いながらやがてあたりまえになっていくもんじゃないでしょうか。やるなら大胆に。	実験
		121	津駅周辺にどれくらい昼間からにぎわうお店があるとお思いですか？休日に誰が津駅前に遊びに行こうと思いますか？そんなことは津市役所に任せてください。県庁が手を出すから津市が何もしない。	実験
駅周辺、駅舎、商業施設など	駅ビル・駅舎	122	駅ビルの建替えや周辺のビジネス街の充実を。	市議
		123	駅に活気がないため、なまこ壁の様な特徴あるデザインにして駅を建て替えて、駅の中に、図書館など人が集まる空間を整備してはどうか。	一般
		124	駅ビルの改築を行い、センスの良い店舗を入れ普通のスーパーマーケットと差別化し集客する。	提案
	周辺施設	125	駅前は魅力がない建物が多い、地価や賃料が割高であることが問題。	一般
		126	駅周辺は古い建物や空き店舗が目立ち、買い物も不便である。	一般
		127	古くて雰囲気ある建築を維持するなど賃料を抑え、特色ある空間を工作的・実験的に創れる、不動産の流動性を高める仕組みが重要である。	一般
		128	津駅に行く目的がないので、商業施設を充実させてほしい	実験
		129	津駅周辺の賑わいや滞留機能の強化は、歩道空間でなく周辺商業施設が立地の好条件を活かしていないのが問題。必ず学生は通行するのだから、若年層向けの商業施設を強化	実験
		130	路面店の拡充(魅力的な店が無い)	実験
		131	他府県と比較して圧倒的に寂しい県都駅前。駅前の再開発で生まれた駐車場が多いが、賑わいを生むような店舗が少ない。津は都市機能が分散され過ぎ	実験
		132	津駅周辺に利用したい施設がなく来訪する機会が少ない。	実験
		133	駅西口をアート、演劇、音楽、本を楽しめる空間へ、駅東口を買物、食文化を楽しめる空間にしていく。	提案
	その他	134	駅上空に商業施設を設け、西口・東口間の歩行者用連絡通路を作ればいい。	一般
		135	歩行空間の拡張を目的とするのではなく、周辺の空きテナント対策やその他公共空間の再編と一体となった歩きたくなるまちづくりの一貫として何が出来るかを模索できると良い。	一般
		136	歩道空間という小手先でなく津駅周辺を何とかしてほしい。これが県都の玄関口とは、他県者に不思議がられる。	実験
		137	現状の津駅利用は、通学や官公庁への利用がほとんどではないか。少し駅から離れると自家用車利用になっているのではないかと考えている。	委員会
		138	公共交通機関やタクシーを利用される方について、朝方は周辺企業に向かわれる方だけといった状況である。県外・市外から津駅に来ていただかないと駅前の活性化に繋がらないと考えている	委員会

備考	意見発言者	備考	意見発言者
経済	津駅周辺道路空間検討会(R2年度):商工者関係	一般	津駅周辺空間の基本的な方向性案に関する県民からの意見(R3年3月)
交通	津駅周辺道路空間検討会(R2年度):交通事業者	提案	津駅周辺空間の利活用等に関する提案募集(R3年6月)
県議	三重県議会議員(R2年度)	実験	「歩道空間の利活用」と「車線減少による交通への影響」についてのアンケート調査(R3年7月)
市議	津市議会議員(R2年度)	委員会	第2回津駅周辺道路空間検討委員会(R3年12月)

3. 津駅周辺道路空間に対する主なご意見（その5）

大項目	中項目	連番	意見	備考
西口の整備	景観	139	西口の方が学生が多いし、博物館や美術館へのルートにもなっているので綺麗にしてほしい。	実験
		140	津駅を再開発するなら、高校生が多い西口をおしゃれに発展させ 東口は、一般用に、交通機能の充実も含め飲食店が充実させる	実験
		141	東口では国道23号がすくなので、落ち着かない。西口から美術館に向けての道も何か洒落たものにしてはどうか。	実験
	その他	142	西口が寂しすぎるので、もう少し人が集まる場があると良い。	実験
		143	津駅は県内有数の乗降客数があるのに、人が歩いたり、集まったりする空間がほとんどないので、この取り組みが街づくりを見直すきっかけになるとよい。西側はもっと状況が悪いと思われるので、周辺の建物を巻き込んで歩行空間を確保してもよい。	実験
		144	特に津駅西口の駐輪場について、汚いとゴミが増加するという研究結果もあり、駐輪場の位置について検討する必要があるのではないかと。	委員会
既存施設の改善要望	地下通路	145	駅の東西を結ぶ通路が、暗くて水漏れ箇所が錆びて通るのが不快。	実験
		146	津駅東口の地下道の雨漏り等修繕してほしい	実験
		147	地下通路の空間の有効活用に向けて検討してはどうか。	委員会
	その他	148	駅周辺にある喫煙所が周囲の迷惑になっているので、撤去する方向で調整いただけると助かる。	実験
		149	栄町3丁目のバス停をもっと何とかしてほしい。 (乗り降りしやすいように。バスが止めやすいように。バス停を分かりやすく。ベンチや屋根など待ってやすく。など)	実験
		150	朝などは歩行者が途切れないため、車が通行できず渋滞する。歩行者が旧道を横切るときに車の危険を感じなくてすむように信号をつけてほしい	実験
		151	駅周辺整備計画を進めていく中では、荷捌きスペースの確保が非常に重要である。	県議
		152	県外の人から県庁所在地の駅としては寂しいといわれることがよくある。津市を代表するような銅像があるだけでも違うかもしれない。	経済
		153	雑草等こまめに整備していく制度も同時に設定してほしい。	一般
		154	駅前空間の良好な景観を整備してほしい。	一般

備考	意見発言者	備考	意見発言者
経済	津駅周辺道路空間検討会(R2年度):商工者関係	一般	津駅周辺空間の基本的な方向性案に関する県民からの意見(R3年3月)
交通	津駅周辺道路空間検討会(R2年度):交通事業者	提案	津駅周辺空間の利活用等に関する提案募集(R3年6月)
県議	三重県議会議員(R2年度)	実験	「歩道空間の利活用」と「車線減少による交通への影響」についてのアンケート調査(R3年7月)
市議	津市議会議員(R2年度)	委員会	第2回津駅周辺道路空間検討委員会(R3年12月)